

農業 機械

北海道

No. 881
平成29年1月1日(2017)

＝ 発行所 ＝

一般社団法人 北海道農業機械工業会

編集発行人 玉木 哲夫

〒060-札幌市中央区北2条西3丁目
0002

タケサトビル

TEL (011)251-7743 FAX (011)241-0497

Email: info@hokunoko.jp

http://hokunoko.jp/

新年のご挨拶



一般社団法人北海道農業機械工業会
会長 青柳 稔

目次

新年のご挨拶	1
一般社団法人北海道農業機械工業会 会長 青柳 稔	
年頭所感	2
経済産業省北海道経済産業局 局長 児嶋 秀平	
平成二十九年知事年頭所感	4
北海道知事 高橋 はるみ	
Eima2016、Eurotier2016 視察報告	5
「アジア有望指導者招聘事業」報告	7
農業機械業界・本会会員の動き	8
編集後記	9
新年名刺広告	10

謹んで年頭のご祝詞を申し上げます。

常日頃より本会にお寄せいただいております皆様のご指導につきまして、厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、待望の北海道新幹線が3月26日に新青森から新函館北斗まで開業し、東京と北海道が4時間余で結ばれることになりました。1988年に青函トンネルが開通して以来実に28年の年月が過ぎました。

一方、8月の中下旬にかけて3つの台風が相次いで北海道に上陸し、北海道に接近した台風10号は十勝地方を中心に農業、交通機関、生産施設・設備並びに市民生活に対し大きな被害をもたらしました。4つの台風による農業被害額は340億円に達し、道内の物流を担う道路や鉄道は甚大な被害を受けました。北海道では台風によるこれほど大きな被害を経験したことはありませんでした。当会の会員企業3社も工場等が床上浸水の被害に遭いました。

このような自然災害や大火災等の緊急事態に企業が遭遇した場合、事業資産の損害を最小限にとどめ、早期復旧を可能とするために、平常時に行うべき活動や緊急時における事業継続のための方法、手段などを取り決めておく必要があります。BCP（事業継続計画）はまさに緊急事

態を想定し事前に策定する行動計画であり、電力や通信、金融等の業種では先行して導入されています。当会としてもこの台風被害を教訓としてBCPの重要性を会員に啓蒙し、計画策定の取組みを進めてまいります。

さて、(株)石村鉄工は現三代目社長になり創立60周年を迎え、昨年11月に旭川市内で記念式典並びに祝賀会を執り行いました。また、オサダ農機(株)は、「コンテナ収容式キャベツ収穫機の開発」の業績により12月に平成28年度(第17回)「民間部門農林水産研究開発功績者表彰」の農林水産大臣賞を受賞しました。

このように事業を継承・発展するとともに新製品を継続的に世に出していくことは、中小ものづくり企業にとって重要であるものの企業経営へ大きな負担をもたらすのは言うまでもありません。国は「中小ものづくり高度化法」を平成18年6月に施行し、“経営力向上に資する革新的サービス開発・試作品開発・生産プロセスの改善”を行う中小企業・小規模事業者の設備投資等に対する支援を継続しています。これらの支援策は資金力に制約がある中小ものづくり企業にとって有用な施策であり、会員にその活用について周知を諮ってまいります。

「スマート農業」という言葉を耳目に接する機会が増えました。昨年の11月30日から2日間にわたりアクセスサッポロにおいてスマート農業技術を一堂に集めた道内初の直接“見て”、“学んで”、“体験する”「北海道スマート農業フェア」が開催されました。フェアでは、道内外から61社が出展し、最新の農業機械やICT技術を展示・実演したほか、スマート農業に関するセミナーも開催され、実質1日半の開催期間に5千名を超える方が来場しました。とりわけ、農業者の方が道内各地からはもとより本州からも来場し、その数は千五百名を超えたと伺っています。

この熱気は、農業の現場で現状の機械化作業体系から次のステップに先進的な農業者の視線が移りつつあることを物語っていると言えます。このような動向・ニーズを的確にとらえ、現行の製品に新たな技術を搭載する準備を進める必要があります。当会としても関係機関と連携を図りながらトラクタと作業機との間の通信制御技術等に関する技術導入の支援を進めてまいります。

道内の農業機械の市場規模は760億円(1980年)から400億円(2008年)に縮小していると当会は推計しています。このような状況を受けて、道外はもとより海外へ市場開拓を進めている会員企業が増えています。昨年の12月13日から16日の4日間、民主化以降の経済発展が著しいミャンマー連邦共和国から2名の要人を招き、“セミ

ナー「ミャンマーにおけるビジネスチャンス」を札幌市と旭川市で開催するとともに、会員企業との意見交換会や会社訪問を行いました。来道の日程が限られていたため、多くの会員企業をご紹介することができませんでしたが、ミャンマーの要人は訪問した会員企業の製品に強い関心を示し、“ミャンマーを早い内に訪問するように”との言葉を残し帰国されました。海外の市場は一朝一夕に開拓できるものではありません。このような切っ掛けを逃すことなく、具体的なアクションを起こす計画を取り進めます。

本年も関係諸機関、関係団体の更なるご支援、ご協力をお願い申し上げます。

この新しい一年が皆さま方にとって輝かしい年となることを心から祈念申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

北海道経済産業局長 年頭所感



経済産業省北海道経済産業局
局長 児嶋 秀平

平成29年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

昨年の我が国経済を振り返ると、名目GDP600兆円の実現に向けた「日本再興戦略2016」や、総事業規模28兆円に及ぶ「未来への投資を実現する経済対策」等、政府の成長戦略や経済対策により、雇用情勢や企業収益を中心とした経済の好循環が拡大しました。北海道経済も、インバ

ウンドに支えられて好調な観光や雇用動向の改善などにより緩やかな持ち直しの状況が見られるとともに、北海道日本ハムファイターズの10年ぶりの日本一や北海道コンサドーレ札幌のJ1昇格などスポーツ面での明るい話題もありました。新年を迎えるに当たり、全国に比較して速いスピードで人口減少と高齢化が進展する北海道の現状を踏まえ、強みを伸ばす「攻め」、危機・災害に強い「守り」、エネルギー供給面から「支える」という3つの政策を着実に進めることにより、「強い北海道経済」をつくりま

まず、地域の未来につながる投資を加速化し、地域経済をけん引する、食、観光、ものづくり先端分野等における中核事業を支援することにより、ローカルアベノミクスを深化させます。食関連分野では、道内農水産物・加工品等の輸出力強化と生産性の向上へ向けた取組を進めます。広がる海外新市場の獲得へ向け、地域商社機能・空港機能を含めた食のグローバルバリューチェーンを構築するとともに、生産・加工現場等におけるIoT・AI・ロボット等の活用支援を通じて生産性を高めることにより、食関連産業の競争力強化を推進します。観光分野では、本年秋から本格開催されるNo Maps（映画・音楽・先端ITが融合する国際コンベンション）の持つソフトパワーを新たな価値・サービスとして道内外へ展開し、北海道や札幌の国際的認知度の向上や新たな未来志向のビジネスの創造に繋がります。また、アウトドア観光のブランド化やワインツーリズムの推進等、地域資源を活かした観光コンテンツの充実に加え、今後増加が見込まれるムスリムインバウンドの需要獲得等の取組により、北海道観光の満足度・消費単価向上、更なるインバウンドの拡大を目指します。さらに、産学官金連携を加速し、自治体による地方創生の取組をソフト・ハードの両面から支援するとともに、今後成長が期待される航空機・医療機器・新素材等ものづくり先端分野や医療・健康関連分野の競争力強化、新分野進出を支援します。

次に、北海道経済の活力源である中小企業・小規模事業者が最大限に活躍できる事業環境の整備を支援します。昨年夏、北海道は大型台風の連続上陸により甚大な被害を受けました。今後こうした自然災害等緊急事態の発生が想定される中、道内中小企業・小規模事業者のBCP（事業継続計画）策定率40%達成へ向け、関係機関と連携しながら様々な施策を展開します。また、生産性向上やイノベティブな研究開

発・設備投資へ向けた税制・補助金等による支援、創業促進、下請取引の適正化等を通じ経営力の安定・強化、新陳代謝の促進を図ります。あわせて、免税商店街の形成によるインバウンド需要獲得等を通じ、商店街の中長期的な発展・自立化を支援します。

北海道の経済成長を支え、道民生活の安全・安心を確保するための取組も着実に進めます。資源・エネルギーのより一層の経済的かつ安定的な供給確保のため、安全性の確保を大前提に泊発電所の再稼働を円滑に進めます。加えて、工場・ビル等事業所や家庭での省エネルギーを進めるとともに、再生可能エネルギーの導入促進に取り組みます。また、昨年の電力小売全面自由化に続き、本年4月に予定されているガス小売全面自由化の円滑な始動へ向けた適切な環境整備を行います。さらに、製品安全確保や悪質商法対策を進め、消費者利益の増進に努めます。

こうした支援を有機的に連携させ、展開していくことにより道内企業の稼ぐ力や生産性が向上し、北海道経済の好循環と将来にわたる持続的な拡大発展につながることを強く期待しています。私を含め当局職員一同、地域の現場へ足を運び、自治体、産業支援機関、金融機関等の皆様と最大限に連携しながら、「強い北海道経済」の実現に尽力いたします。

本年が皆様にとって実りの多い飛躍の年となりますよう、心から祈念いたしまして、新年の御挨拶とさせていただきます。

+++++

平成二十九年 知事年頭所感



北海道知事
高橋 はるみ

新年明けましておめでとうございます。皆様とともに新春を迎えることができましたことを、大変うれしく思います。

昨年を振り返りますと、三月に道民の長年の夢であった北海道新幹線が開業しました。

北海道の歴史に新たな一ページが刻まれ、道外との交流拡大の大きな弾みとなりました。

スポーツの分野では、リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックでの道産子選手の活躍や、北海高校の夏の甲子園準優勝、北海道日本ハムファイターズの十年ぶりの日本一、北海道コンサドーレ札幌のJ2優勝など、明るい話題が続き、道民に勇気と感動を与えてくれました。

また、食や観光の海外への売り込みや、安心して子育てできる環境づくり、医療・福祉サービスの確保など、地域創生に向けた様々な取組を進め、次への飛躍に向けた確かな礎を築くことのできた一年であったと思います。

一方で、八月から九月にかけ相次いだ記録的豪雨により、道内各地で未曾有の被害が発生しました。お亡くなりになられた方々とそのご遺族の皆様にご心からお悔やみ申し上げますとともに、被害に遭われた方々にお見舞い申し上げます。依然として、道民生活や地域産業に大きな影響が残っており、道としては、被災地域の速やかな復旧・復興に向け、引き続き国や市町村などと総力を挙げて取り組んでまいります。

今年は、これまで進めてきた地域創生を一層推進し、次のステージへと押し上げていく年にしたいと考えています。

海外戦略の新たな展開に向け、若者の海外留学への支援など本道の未来を担うグローバル人材の育成に取り組むほか、昨年シンガポールに設置したアセアン事務所を拠点として、北海道ブランドの発信や市場開拓、投資の呼び込みなどを強力に推進するとともに、新たな航空路線も活用した農水産物の販路拡大に取り組むなど、道産食品の一層の輸出拡大を図ります。

また、ICT等の先端技術を活用したスマート農業など、攻めの農林水産業を展開するとともに、中小・小規模企業の振興をはじめ、新エネルギーの開発や活用促進、健康長寿産業の振興など、次世代を担う成長産業の創造に取り組めます。

持続可能な活力ある地域づくりを進めるため、結婚、出産、子育てとそれぞれの段階に応じた切れ目ない支援を強化するとともに、東京に開設した「移住定住情報センター」を核とした情報提供や北海道版「生涯活躍のまち構想」の普及など、「北海道暮らし」の魅力を創造・発信し、道内に人を呼び込み、定着を促してまいります。

多くの道民の皆様から不安の声が寄せられているJR北海道の事業範囲の見直しについては、地域の皆様と連携・協力を図りながら、道としての役割をしっかりと果たしてまいります。また、全国的にも例のない道内七空港の一括民間委託の取組を進め、空港の機能強化や航空ネットワークの充実により、広域観光やインバウンドの振興、さらには、北海道全体の活性化を図ってまいります。

こうした取組を通じて、北海道の新しいキャッチフレーズである「その先の、道へ。北海道」に込められた思いを形にしていくため、北海道の無限の可能性を信じ、本道が有する潜在力を十二分に引き出しながら、道民の皆様とともに「輝きつづける北海道」の実現に向けて全力を尽くしてまいりますので、皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

新しい年が皆様にとりまして、希望に満ちたすばらしい年となりますよう、心からお祈り申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。

+++++

Eima2016、Eurotier2016 視察報告

道総研 北見農業試験場長 竹中秀行

11月12日から18日の日程でイタリア・ボローニャ市で開催のEima2016、ドイツ・ハノーフェルメッセで開催のEurotier2016を訪問した。いずれも1日ずつの短時間ではあったが、各々の展示会の特徴を捉えることができたと思う。撮影役を引き受けて頂いた道農政部K氏に感謝しつつ画像を添えて一端を紹介したい。

Eima2016

イタリア・ボローニャ市の展示会場で11月9日～13日の5日間開催され、主催者の発表によれば来場者数は28万5千人と2014年の記録を21%伸ばした。

最終日の13日は日曜日であったが開場時刻には当日券を求める人がいた。事前にEIMAのHPでバーコード入場券を入手でき、我々外国人は無料である。



日曜ということも手伝って人出はまあまあ。家族連れが多く、トラクタの試乗や大型コンバインの周りには子供連れの家族で賑わっていた。

街中にあるR&B (Room & Breakfast と言うらしい) に宿を取り、徒歩15分ほどにあるボローニャ駅から会場まではタクシーを利用した。片道約

5分13ユーロ程度と近い。会場は20ほどの大きな屋内展示場から構成されているが、建物がほぼ隣接しているので距離感はさほどない。

他の国際展示会と同様に革新技術の表彰を行っており、自走搬送時の視認性を向上させるための伸縮式リールを採用したコンバインの折りたたみヘッダ、ワインヤードの株周りを加温した泡で囲んで殺草する装置など25件が受賞した。詳細はEIMAのHPに掲載されているので参照されたい。

今回のEima視察の主要な目的は野菜収穫機の情報収集である。数社からトマト、醸造用ブドウ・オリーブ、ナッツ収穫機の出展があった。結論から言うと作動原理から見て新技術と言えるものはなかったが、初めて接する機械も多く、構造まで直接見ることは収穫である。

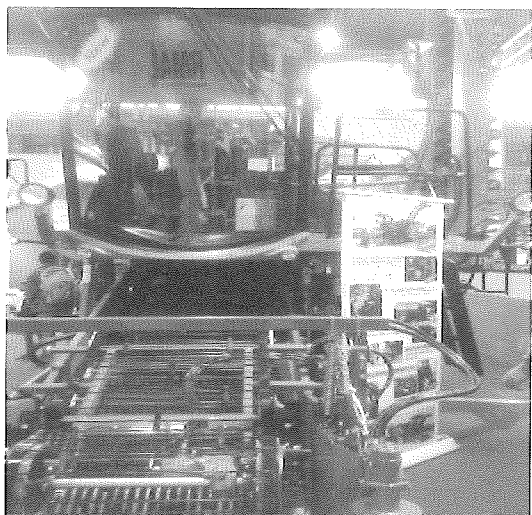
加工用トマト収穫機

GUARESI社、MTS-SANDEI社の出展で、いずれも自走式である。構造はよく似ており、櫛状のディバイダで果実などを浮かせて地際から刈り取り、振動式スポークホイールなどで果実を茎から外し、分離コンベヤで茎葉のみを機外へ排出する。排出前に粉碎用のフレールチョップを装備されている。



GUARESI G120-40

分離コンベヤをくぐり抜けた土や未熟果などはカラーソーターで識別され、空気式のエジェクタで弾かれて排出される。これらの分離、選別システムは1989年には開発されている。筆者もSANDEI社(Palma)を訪問した折に紹介を受けた記憶がある。処理能力は毎時20トン以上という。なお、GUARESI社の収穫機は日本にも出荷されている。



MTS-SANDEI SL15

醸造用ブドウ・オリーブ収穫機

New Holland、Pellenc、GREGOIRE 各社のスタンドでは自走式収穫機を見ることができた。いずれも外観は類似しており、果樹を跨いで両脇から果実を落とし、コンベヤで受けて両サイドの収納部へ搬送する手前で選別を行う。果樹の幹を両側からロッドで挟むようにしてロッドを振動させて揺すり落とすが、メーカーによってロッドの形状が異なる。選別は形状が各社異なっているがローラーなどによる篩い選別と風選を行っている。



New Holland BRAUD



GREGOIRE

収穫装置は着脱可能で防除装置を装着すれば防除作業に使用できる。道内には低損傷で高効率であるとして Agritechnica2011 で銀賞を受賞した New Holland BRAUD 製の収穫機がテーブルワイン用に導入されている。

振動式のオリーブ収穫機や収穫器具が数カ所展示されていた。枝を挟んで振動させ、落下した果実を傘状のシートを開いて収集するもの、ポールを手で持ってスポークを枝にかけ振動させて果実をシートなどの上に落下させて収穫するものなどいろいろである (写真下)。



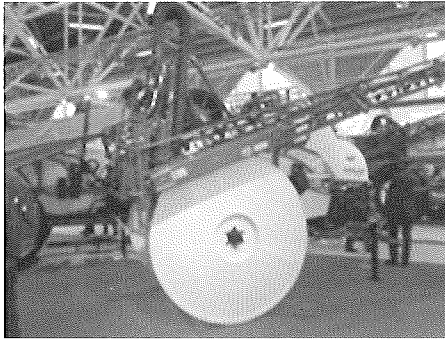
ナッツ類収穫機

宿泊した R&B でも朝食にミカン、小さ目のリンゴやザクロと一緒にクルミや栗が殻割りハサミとともに供されていた。果樹園で熟して落ちた果実を拾い集める方式の自走式収穫機が各種展示されていた。ビデオで下草が刈り揃えられた園地に落ちた栗を快調に収穫する風景が流されていた。

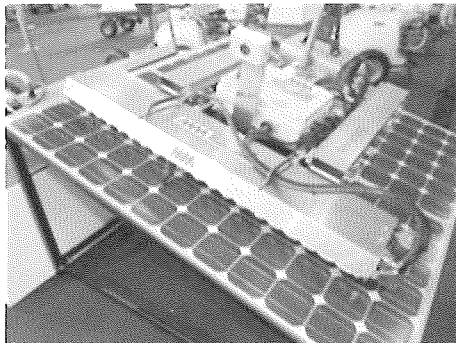


ナッツ類収穫機

その他、アグリテクニカでも見られる大型機械、葉菜用収穫機の展示も見られたが、静電散布機や株間除草装置などワインヤード用の機械の展示の多いことが特徴的であった。展示はなかったが、トマト収穫機のメーカーでは同様の技術でピーマン、ズッキーニ、キュウリなどの自走式収穫機も取り扱っている。また、珍しいところでは水田用車輪を履いた防除機、太陽光パネル掃除機などがあった。



水田用車輪



太陽光パネル掃除機

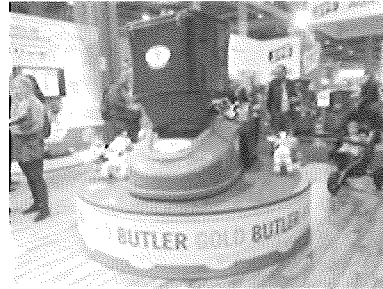
Eurotier2016

Agritechnica と同じハノーファメッセで開催される畜産とエネルギー関連技術の国際展示会で、2016年の展示社数2,629、訪問者数は16万3千人、うち海外から3万6千人と2012年の記録を塗り替えて過去最大の規模となった。革新技術としてWickeyバンカーサイロのフィルムの敷外しの自動化技術、Smart Calf System 仔牛の授乳、飲水量及び位置情報のセンシングによる個体管理システム、Eartag LIFE 軽量で誕生から飼養期間を通じて位置情報などの情報を収集可能なイヤータグ式センサ、PiggyCheck 3Dカメラ画像で肥育豚の重量を推定し、スマートフォンに送信するシステムの4つに金メダル、その他牛の飼養管理、給餌技術8つ、搾乳、冷却技術1、豚の飼養管理・給餌技術4つ、養鶏技術4つ、環境測定技術の計21の技術に銀メダルが与えられた。詳細はEurotierのHPを参照にされたい。

鶏、豚、牛の飼料に関する展示会場が多い。家畜の品種展示もあり、生体の室内展示のため、私はこもった臭気に辟易したが、皆さん慣れているらしく、気にもしないですぐ側で軽食を食べながら談笑されていた。

乳牛の個体管理の潮流として、体温、反芻、位置情報などを検知するセンサを首に装着し、牛の行動を自動的に記録し、疾病予知、発情検知を行

うことで繁殖性、乳生産性の向上を実現するシステム開発が盛んである。自動搾乳時の乳房ごとの成分分析データとも突合することでより細かな個体管理を行うことが出来る。アイルランド、Dairymaster社のMooMonitorというシステムの展示ではスマートフォンで収集データの一例を紹介していた。同様のシステムは他にもあり、日本でも導入されつつある。



自動掃き寄せ装置あれこれ

また、数社のスタンドで飼料の自動掃き寄せ機が展示されていた。省力化の意味もあるが、上記のセンサデータに基づいて掃き寄せ時間の設定を行うことで生産性向上により貢献できることだろう。

(ここまで：北見農業試験場長 竹中秀行)

「アジア有望指導者招聘事業」報告

～ ミャンマー連邦共和国の要人招聘 ～

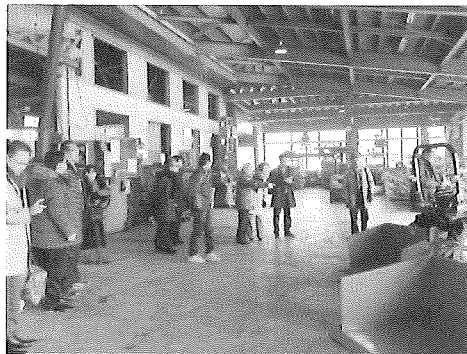
(一財) 貿易研修センターの平成28年度「アジア有望指導者招聘事業」並びにJETRO北海道貿易情報センターの支援を受け、ミャンマー連邦共和国より2名の要人を招聘するとともにJETROヤンゴン事務所初代所長を務めた荒木義宏氏を招

き、ビジネスセミナー「ミャンマーにおけるビジネスチャンス ～ 農業・農業機械分野を中心に～」を札幌（12月13日）と旭川（15日）で開催し、札幌会場が約60名、旭川会場が約30名の方に出席いただいた。13日の午前中は、北海道経済産業局長を表敬訪問し、同局長から同国との経済交流が深まることに期待が寄せられた。



セミナーで質問を受ける三名の講師

ビジネスセミナーの前に開かれた意見交換会では、会員企業3社（本田農機工業、サークル機工、東洋農機）が会社概要と主要製品をプレゼンテーションし、その後ミャンマー側との意見交換を行った。午後2時からセミナーが開催され、ミャンマーの農業の現状や同国が必要とする農業機械について講師の三名から発表があった。参加者からミャンマーとのビジネスに関する質問が相次いで出された。

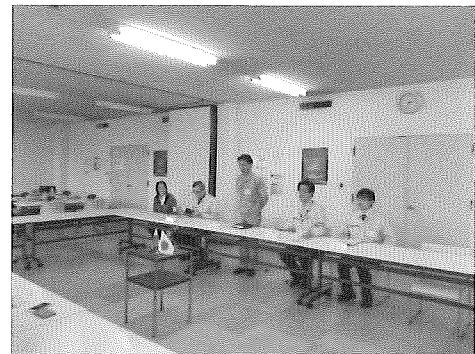


アトム農機の工場を視察する一行

ミャンマーの要人並びに関係者11名は、14日に美瑛町の（株）アトム農機と旭川市の（株）エフ・イーを訪問し、二社から温かい歓迎を受けた。翌日、旭川市長と旭川商工会議所副会頭を表敬訪問し、ミャンマーとのビジネス展開をアピールした。午後からビジネスセミナーが開催され、ミャンマーに強い関心を持つ出席者と活発な質疑応答がなされた。ミャンマーの一行は、16日の午後、（株）IHI スターを訪問し、青柳社長や海外営業担当者の出迎えを受け、同社の概要や主要製品の説明を聞いた後、工場を視察した。

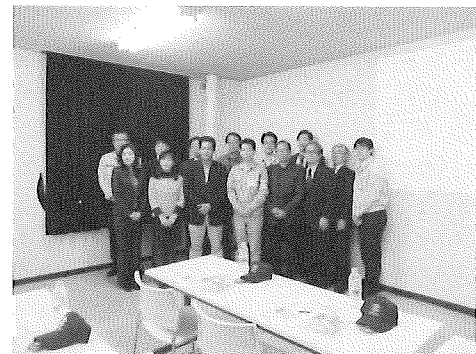


エフ・イーの工場を視察する一行



IHI スターで歓迎を受ける

今回のミャンマー要人の招聘事業を締めくくる意見交換を（株）IHI スターで青柳当会会長とミャンマーの要人2名との間で行った。



IHI スターで記念写真

農業機械業界・本会会員の動き

☆平成28年3月14日 IHI スター、東洋農機、北海道ニプロの三社が、北海道の「ロシア極東地域ビジネス事業」の支援を受けて、ロシアのウラジオストク市にある国際空港旧ターミナルビル（スモウトリ社ショールーム）で1月から3月末まで農業機械の展示を行いました。

☆平成 28 年 3 月 28 日 (株)キセキ北海道は 3 月 1 日に開かれた株主総会及び取締役会において、小田切元氏が代表取締役社長に選任され、前任の山田浩氏は(株)ISEKI アグリの顧問に就任されました。

☆平成 28 年 5 月 25 日 第 64 回通常総会、第 217 回理事会、表彰式並びに表彰祝賀会が開催されました。通常総会では 2 件の報告事項と 8 件の議案が審議され承認されました。

☆平成 28 年 5 月 25 日 (株)北海道クボタが賛助会員として入会しました。

☆平成 28 年 6 月 28 日 サークル機工(株)は代表取締役社長に川島啓氏が選任され、笠井徹雄氏は退任しました。

☆平成 28 年 8 月 17 日～31 日 北海道に上陸、接近した 4 つの台風は農業、交通機関、生産施設・設備並びに市民生活に対し大きな被害をもたらしました。

☆平成 28 年 10 月 1 日 日本キャタピラーは、グループの販売会社 3 社(キャタピラー東北株式会社、キャタピラーイーストジャパン株式会社、キャタピラーウエストジャパン株式会社)をそれぞれ合同会社へ変更いたしました。

☆平成 28 年 10 月 3 日 (株)エフ・イーが北海道新聞朝刊の「につぼん白書 中小企業はいま(上)」に掲載されました。

☆平成 28 年 11 月 4 日 (株)石村鉄工は創立 60 周年を迎え、旭川市内で記念式典並びに祝賀会を執り行いました。

☆平成 28 年 11 月 18 日 スガノ農機(株)は、全国の営業拠点を 12 に拡大する再編強化を発表し、12 月 1 日付で実施しました。

☆平成 28 年 11 月 30 日・12 月 1 日 アクセスサッポロにおいて「北海道スマート農業フェア」が開催され、道内外から 61 社が出展し、来場者は 5 千名を超えました。

☆平成 28 年 12 月 14 日 オサダ農機(株)は、「コンテナ収容式キャベツ収穫機の開発」の業績に対し、キャベツ収穫機開発グループの一員としてヤンマー(株)とともに平成 28 年度(第 17 回)「民間部門農林水産研究開発功績者表彰」農林水産大臣賞を受賞しました。

☆平成 28 年 12 月 13 日～16 日 (一財)貿易研修センター、JETRO 北海道貿易情報センターと当会は、民主化以降の経済発展が著しいミャンマー連邦共和国から 2 名の要人を招き、「セミナー「ミャンマーにおけるビジネスチャンス」」を開催するとともに会員企業の視察並びに意見交換会を行いました。

編集後記

- ★次期アメリカ合衆国大統領にドナルド・ジョン・トランプ氏が選出されました。
- ★TPP を批准した国は日本のみ。先行きは・・・
- ★北海道を直撃する台風が増えてきました。温暖化や異常気象の影響でしょうか。
- ★台風による農業被害は 340 億円。当会の会員企業 3 社も工場等が床上浸水の被害に遭いました。
- ★(株)石村鉄工は創立 60 周年を迎え、旭川市内で記念式典並びに祝賀会を執り行いました。おめでとうございます。
- ★ミャンマー連邦共和国から 2 名の要人を招いて開催したビジネスセミナーや会員企業とのマッチングに手ごたえを感じました。次の一手を打たねば!
- ★オサダ農機(株)が「民間部門農林水産研究開発功績者表彰」農林水産大臣賞を受賞しました。おめでとうございます。
- ★新年度から HAMA's News のより一層の充実に努めます。

(文責 玉木 哲夫)

平成29年 謹賀新年



IHI GROUP
Realize your dreams

代表取締役社長
青柳 稔

株式会社IHIスター

〒066-8555 千歳市上長部 1061-2
TEL 0123-26-1122 FAX 0123-26-2097
<http://www.ihi-star.com>

わたくしたちはアグリパートナーです。



東洋農機株式会社

本社 / 〒080-2462 帯広市西2条北1丁目2番5号
TEL (0155) 37-3191 FAX (0155) 37-5399
<http://www.toyonoki.co.jp>

代表取締役会長 山田 政功
代表取締役社長 太田 耕二

創業90周年

株式会社 土谷製作所

代表取締役会長 土谷 令次
代表取締役社長 土谷 敏行

本社 札幌市東区本町2条10丁目2-35
電話 (011) (代)781-5883番
E-mail eigyo@sapporo-tsuchiya.co.jp
URL <http://www.sapporo-tsuchiya.co.jp>



株式会社 福地工業

代表取締役 福地 博行

☎090-0838 北見市西三輪4丁目712番地
電話 (0157) 36-5714(代)
FAX (0157) 36-7512
E-mail h.fukuti@fukuti.co.jp

株式会社 アトム農機

代表取締役 寺崎 雅史

本社 上川郡美瑛町北町2丁目
電話 (0166) 92-3315番
美瑛工場 上川郡美瑛町扇町
富良野工場 富良野市学田3区工業団地
北見出張所 北見市曙町670番地
ホームページ <http://atomnoki.com>

小樽市銭函2丁目54番地8号

北海バネ株式会社

代表取締役社長 岸 俊之



代表取締役 石村 聡 英
TOSHIHIDE ISHIMURA

〒071-0215
北海道 上川郡美瑛町扇町
株式会社 石村鉄工 TEL 0166-92-2278 FAX 0166-92-2379
URL <http://ishimura-agri.co.jp>
E-mail info@ishimura-agri.co.jp

株式会社 札幌オーバーシーズ コンサルタント

代表取締役社長 滝沢 靖六

〒060-0004 札幌市中央区北4条西11丁目SOCビル
電話 011-231-6547 ファックス 011-231-6595
E-mail : soc@pop02.odn.ne.jp
URL : <http://www1.odn.ne.jp/soc/>

平成29年 謹賀新年

本田農機工業株式会社

代表取締役会長 本田 正一
代表取締役社長 本田 雅義

岩見沢市栗沢町北本町74番地
TEL 0126(45)2211
FAX 0126(45)2212



農機 農は人為1割、自然9割
白スガノ農機株式会社

土の館 代表取締役社長 菅野 充八

本社：空知郡上富良野町西2線北25号 TEL.0167-45-3151
工場：茨城県稲敷郡美浦村間野字天神台300 TEL.029-886-0031

野菜収穫機の開発・販売
Osada オサダ 農機株式会社
<http://www.osada-nouki.co.jp>

代表取締役 長田 秀治
Shuji Osada

〒076-0006 北海道富良野市宇扇山877番地3
TEL 0167-39-2500 FAX 0167-39-2501
E-mail : osada@osada-nouki.co.jp

日本キャタピラ CAT

執行役員
北海道支社長

古本 尚吾 キャタピラーイーストジャパン合同会社
〒004-0802
北海道札幌市清田区里塚2条6丁目3-5
TEL (011)881-2823
FAX (011)882-1542
E-mail : furumoto_shogo@jpnecat.com
URL : <http://www.nipponcat.co.jp/>

訓子府機械工業株式会社

代表取締役 松田 和之

本社 常呂郡訓子府町東町1番地1
tel:(0157)47-2131 fax:(0157)47-4330
北見工場 北見市西三輪4丁目725番地
tel:(0157)36-5181 fax:(0157)36-8695

株式会社 9カキ9

代表取締役社長 松本 充生

(北海道営業部 札幌工場)
札幌市東区北丘珠2条3丁目1番20号

総合農業機械・産業機械・製造販売
北央共立販売株式会社

一級農業機械技能士
代表取締役社長 渋谷 正義

携帯 090-8897-2245
e-mail masayoshi.229.shibuya@ezweb.ne.jp

本社・工場 岩見沢市東町697の3
電話代(0126)22-6262番
FAX(0126)22-6225番
URL : <http://hokuokyoritsu.com>
奈井江支店 奈井江町茶志内970-10
電話代(0125)65-5115番
FAX(0125)65-5114番

十勝農機株式会社

代表取締役 飯島 美樹雄

北海道河西郡芽室町西8条8丁目2番地

平成29年 謹賀新年

エアウォーターグループ



日農機製工株式会社
日農機株式会社

取締役会長 **安久津 昌義**
代表取締役社長 **林 山都**

日農機製工株式会社・工場
所在地：足寄郡足寄町郊南1丁目
電話：(0156)25-2188(代)
FAX：(0156)25-2107
<http://www.nohngp.co.jp>

日農機株式会社
所在地：音更町字音更西2線17番地
電話：(0156)45-4555(代)
FAX：(0156)45-4556



総合畑地かんがい・オルガニックリナー総発売元

株式会社 サンスイ興業

代表取締役 **高橋 弘**

〒090-0001 北見市小泉413番地10
電話(0157)61-7631 FAX(0157)61-7634

E-mail: sansui1981@proof.ocn.ne.jp

札幌営業所 〒001-0028 札幌市北区北28条西3丁目2番3号
電話(011)688-8808 FAX(011)688-8838

サンエイ工業株式会社

代表取締役 **毛利 剛**

本社 〒099-4115 斜里郡斜里町光陽町44番地
電話 (0152) 23-2173 番(代)

勝 有限会社 **工藤農機**

取締役 **工藤勝弘**

〒089-1242 帯広市大正町基線45番地3
電話 (0155) 64-4147番
FAX (0155) 64-5021番

Niplo 北海道ニプロ株式会社

取締役社長 **松山 信久**

常務取締役 **工藤 忠**

〒069-1208 夕張郡由仁町山形563

TEL 0123-83-2352

FAX 0123-83-2501

since1945 70th

SHIBUYA

Machine production
for agriculture

株式会社 渋谷

(旧社名 株式会社 渋谷鉄工所)

代表取締役社長

渋谷 嘉伸

〒090-0832

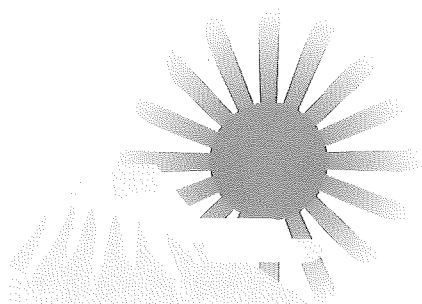
北海道北見市栄町2丁目1番地2

TEL 0157-23-6241(代)

FAX 0157-25-4699

E-mail K-sibuya@vesta.ocn.ne.jp

<http://www14.ocn.ne.jp/~sibuya/>



平成29年 謹賀新年



BOLT・NUT & SCREWS
城東製鉄株式会社
 株式 隅田製螺製作所

代表取締役 隅田彰三

札幌営業所 〒065-0019 札幌市東区北19条東21丁目4番11号
 TEL:(011)786-7233 FAX:(011)786-7236
 帯広営業所 〒080-2461 帯広市西21条北1丁目6番14号
 TEL:(0155)66-7023 FAX:(0155)66-7024
 本社 〒577-0815 東大阪市金物町1番8号



F&S SYSTEM WORKS CO., LTD.

Simple is Best — 理想のシステム開発

代表取締役 社長

佐々木 通彦

SASAKI

MICHIHIKO

株式会社 **エフ・エス**

本社・工場

〒078-8273 旭川市工業団地3条2丁目2番27号

TEL:0166-36-4501 FAX:0166-36-4502

HANDY PHONE:090-8272-7007

E-mail:info@fesystem.co.jp

sasaki@fesystem.co.jp

<http://www.fesystem.co.jp>



Think globally, act locally.

経土谷特殊農機具製作所

代表取締役

土谷 紀明

〒080-2461 帯広市西21条北1丁目3番2号
 TEL:0155-37-2161・FAX:0155-37-2751
 E-mail:pre@tsuchiyanoki.co.jp
<http://www.tsuchiyanoki.com>



ホクレン農業協同組合連合会

農機燃料自動車部長

佐藤 孝一

好評発売中

『踏んばれ!!日本農業』 A5判70頁

—— 日本農業の成長産業化目指して ——

週刊 農経しんぼう 購読料年間 15,720円

2017年 農機実業総覧 定価15,000円 (税・送料別)

★お申し込みは 本社: TEL03-3815-0211
 (株)農経新報社 FAX03-3815-0265

農村ニュース

農業機械の専門新聞です
 農政と機械化の問題点
 農業機械の新製品動向
 農業関連資材の動き

株式会社 **国際農業社**

本社 東京都台東区上野1-16-5産経ビル ☎ 03-3831-5281(代)

支社 大阪市西区京町堀1-10-8福岡ビル ☎ 06-6441-2043(代)

URL <http://www.nouson-n.com>

E-mail info@nouson-n.com

平成29年版 北海道農協年鑑

DAIRYMAN

電子版日刊 北海協同組合通信

株式会社 北海道協同組合通信社

〒060-0004 札幌市中央区北4条西13丁目

TEL:(011) 231-5261 FAX:(011) 209-0534

月刊 機械化農業

'16農業機械年鑑

農業・農業機械化の動きを知る専門誌

株式会社 **新農林社**

本社/東京都千代田区神田錦町1-12-3

☎ 03-3291-3671(代) FAX 03-3291-5717

支社/大阪市浪速区元町1-3-8

☎ 06-6648-9861(代) FAX 06-6648-9862

農機新聞のホームページ <http://www.shin-norin.co.jp>



平成29年 謹賀新年

一般社団法人 北海道農業機械工業会 役員一同

顧問	監事	監事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	専務理事	副会長	副会長	会長
高井 宗宏	小松 田 清	山本 哲夫	菅野 充八	長田 秀治	太田 耕二	寺崎 康治	福地 博行	毛利 剛	安久津 昌義	本田 正一	玉木 哲夫	土谷 令次	松田 和之	青柳 稔	
(学識経験者)	(株式会社タカキタ北海道統括室長)	(北海パネ株式会社 専務)	(スカノ農機株式会社 社長)	(オサタ農機株式会社 社長)	(東洋農機株式会社 社長)	(株式会社アトム農機 会長)	(株式会社福地工業 社長)	(サンエイ工業株式会社 社長)	(日農機製工株式会社 会長)	(本田農機工業株式会社 会長)	(学識経験者)	(株式会社土谷製作所 会長)	(訓子府機械工業株式会社 社長)	(株式会社H-Iスター 社長)	

株式会社 キュウホー

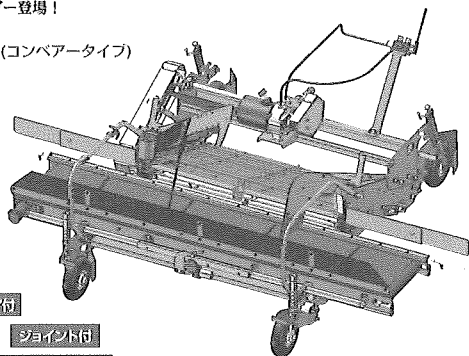
キュウホー「デガー」おすすめですよ。

収穫機

玉ねぎデガー

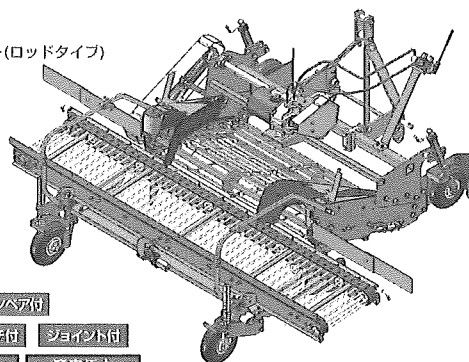
■玉ねぎデガー登場!

玉ねぎデガー(コンバアタイプ)
■DEGA-1



横送りコンバア付	ジョイント付
9点ヒッチ付	
重量	適応馬力
220kg	13~35ps
作業能率(m)	収穫幅
20~45	120cm

玉ねぎデガー(ロッドタイプ)
■DEGA-2



横送りコンバア付	ジョイント付
9点ヒッチ付	
重量	適応馬力
230kg	13~35ps
作業能率(m)	収穫幅
20~45	120cm

株式会社 キュウホー

北海道足寄郡足寄町旭町5丁目71-1 ホームページ <http://www11.plala.or.jp/qfo/>
TEL(0156) 25-5806 FAX(0156) 25-6121